

昨年の幼鳥標識個体数は、61羽という驚異的な数字を記録しました。幼鳥の増減はいろんな条件で変わってきますが、それらを除外しても増えたと言えるでしょう。それは精力的に調査した結果です。しかし幼鳥の生存率（推定2割弱）その中で何羽が繁殖まで行きつくのかを考えると手放して喜んでいられません。しかしまずは61羽という数字に標識者にご苦労様と言いたいです。今年はどのような数字を出してくれるのか楽しみです。

ところで鳥類の羽毛は一体何枚あるかご存じでしょうか？我々の小さい頃はニワトリを飼っている家庭が多くありました。勿論ペットじゃなく卵をとるため。そのニワトリも歳をとると卵を産まなくなります。そうなったら食卓を賑わしてくれました。羽根はすべてむしり取るわけですが、羽根（羽毛も含む）の数は何枚あるかなんて考えもしませんでした。それを実際に数えるとなると大変な作業です。しかしこれをやった人達がいいます。（The Global Owl Project）のDr. デイビット ジョンソンのスタッフ数名が数日かけて数えました。個体は死亡したアメリカワシミミズクです。結果12,230枚と驚く数でした。この数は一般の鳥類の4倍に匹敵します。中型のトラフズクも同程度あるらしい。多いよう



に思えるワシタカ類はフクロウ類の約半分です。いかにフクロウ類は多くの羽毛を有しているのかわかります。寒暖差に強いのも納得がいきます。さらに頭部の羽毛は全体の32%（約4000枚）ありますが、重さは総重量のわずか7%に過ぎません。いかに頭部を重要視しているのかわかります。シマフクロウにはいったい何枚あるのでしょうか。

●引用「フクロウ」  
ジェニファー・アッカーマン著



リハビリ中のアメリカワシミミズクと獣医師ローラ・ジョンソン



事務局便り

●本号の記事のとおり、今年もシマフクロウ保護活動に携わる個人・団体に7回目となる支援金の助成を行いました。このところ、シマフクロウの数は増加に転じてはいますが、それは関係者の皆さんの努力があってこそその成果です。当会としても、引続きこの財政面での保護活動の支援を継続して参りますので、会員並びに寄付者の皆様の一層のお力添えを心よりお願い申し上げます。

●賛助会員ご入会・ご寄付を募集しています

当会の活動趣旨にご賛同いただける法人・個人の皆様の賛助会員ご入会とご寄付を募集しています。

当会のホームページからもご入会手続・ご寄付申込手続ができますのでよろしくお願いいたします。

【認定NPO法人北海道シマフクロウの会 事務局】（担当：米谷・米澤・佐々木）

〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地 北洋ビル6階（札幌道二十世紀総合研究所内）TEL 011-231-8681 FAX 011-231-3143

URL: <https://hokkaido-shimafukurou.org/> E-mail: [info@hokkaido-shimafukurou.org](mailto:info@hokkaido-shimafukurou.org)

# 北海道

# シマフクロウ通信

特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会 機関誌



第43号



つがい/下:若い雌  
写真:山本純郎



日本の動物園におけるシマフクロウの飼育は東京都恩賜上野動物園が最も古く、1882(明治15)年の開園から飼育されてきました。そして、1912(大正元)年までに9羽の記録があります。戦後の1954(昭和29)年から数園で展示飼育が再開されましたが、単羽飼育や性別不明のため残念ながら繁殖に至りませんでした。

釧路市動物園は1975(昭和50)年に開園当初からシマフクロウを飼育しました。その個体は鶴ヶ岱公園で保護収容されていた5羽のシマフクロウです。そして20年後の1995(平成7)年に世界で初めて動物園でシマフクロウの繁殖に成功しました。2025(令和7)年末までに27回35卵がふ化しました。そのうち人工ふ化育雛が3回3卵、自然ふ化が24回32卵(内托卵5卵)で25羽のヒナが巣立ちました。

動物園全体では旭川市旭山動物園と札幌市円山動物園でも繁殖に成功し、34回46卵がふ化し、そのうち人工ふ化育雛が4回4卵、自然ふ化が30回42卵(内托卵5卵)で35羽もヒナが巣立っています。

2020年末では4園で25羽(♂10♀13?2)を飼育していましたが、2025年末では6園で32羽(♂14♀17?1)を飼育しています。北海道以外では秋田市大森山

動物園、長野市茶臼山動物園、栃木県那須どうぶつ王国で飼育展示されています。

この5年の間に、新たな繁殖ペアが誕生しました。R黄(オス)とアオイ(メス)のペアです。R黄は2018年に旭山動物園でふ化した個体で、父親(ロコ)は釧路市動物園生まれでアカン(オス)×ピーコ(メス)の子供になります。母親(モコ)は野生個体となります。アオイは2019年に釧路市動物園でふ化しました。両親は共に野生個体となるフラト(オス)とラライ(メス)となります。アカン×ピーコとフラト×ラライという別系統の子供がペアになるのは初めてとなります。今まではアカン×ピーコの子孫に野生由来個体をペアにして子孫を増やしてきました。それゆえ動物園生まれのシマフクロウは元をたどれば必ずアカン×ピーコにたどり着きます。アカン×ピーコ以外で野生由来個体

同士のペアを作ることができなかったのです。2017年にフラト×ラライに初めてのヒナが誕生しました。新たに野生由来個体同士でペアが誕生したのです。この2つの系統の子供が今回初めてペアになり2024年に初めてヒナがふ化しました。

動物園ではなるべく親戚がペアにならない様に血統を管理しながら繁殖に取り組んでいます。難しく言うと遺伝的多様性を保つように管理を行っています。



R黄とアオイ



恋愛給餌



ヒナ

- シマフクロウの家系図をウェブ版「シマフクロウ通信43号」の付録としてホームページで公開しています <https://hokkaido-shimafukurou.org/>。プリントご希望の方は事務局までご一報ください。

## 事務局まとめ

### 令和7年度(第7回)シマフクロウ保護活動支援金を贈呈しました

令和8年1月21日に開催された令和7年度第2回理事会において、下記の通り支援金額、贈呈先が決定されましたので、令和8年2月27日に支援金の振込を行いました。この原資は令和7年9月5日から10月30日の期間、多くの皆様からご支援を賜りました第7回クラウドファンディングによる寄付金を当てております。改めましてご支援に対し心より感謝申し上げます。

#### 支援金贈呈先 支援金総額 130万円

- 山本 純郎氏(根室市):継続支援 ●早矢仕 有子氏(札幌市):継続支援 ●竹中 健氏(札幌市):継続支援
- 齊藤 慶輔氏(釧路市):継続支援 ●田村 康教氏(釧路町):継続支援
- ニムオロ自然研究会 高田 令子氏(根室市):継続支援 ●釧路市動物園(釧路市):継続支援
- 札幌市円山動物園(札幌市):復活支援 ●旭山動物園(旭川市):復活支援
- 公益財団法人日本野鳥の会(ウトナイ湖サンクチュアリ):継続支援
- シマフクロウボランティア 峯岸 明日香氏(札幌市):復活支援

以上 個人5名 団体・法人6先 計11先

それぞれの支援金額は、諸事情を勘案のうえ、5万円~20万円としています。保護活動支援金贈呈先の皆様の日頃の活動などにつきましては、今後北海道シマフクロウ通信紙面等にてお知らせする予定です。

## 事務局まとめ

### 北洋銀行共催

#### シマフクロウ保護・サステナビリティ推進講演会開催

開催日●令和8年1月20日(火)17:40開始

場所 ●北洋銀行大通センタービル4階セミナーホール

北洋銀行講話



竹中氏講演

当会では「ほっくー基金」による助成等を通じ北海道における生物多様性保全推進に取組む北洋銀行と連携し、当会や北洋銀行の活動の報告並びに当会が支援するシマフクロウ生息現場での保護活動の状況を、実際に活動に当たられている専門家に伺う貴重な機会として講演会を開催しました。当日は50名を超える方に参加いただき、1時間半にわたる講演会に熱心に耳を傾けていただきました。当会、北洋銀行、シマフクロウ環境研究会代表の竹中健氏の講話・講演の要旨をまとめました。

### 認定NPO法人北海道シマフクロウの会村田理事長挨拶

#### 2025年はシマフクロウの保護活動にとって波乱の1年

- 最もショッキングだったのは10月に根室管内で回収された1羽から、致死率の高い高病原性鳥インフルエンザウイルスが初めて検出されたこと。
- 11月には札幌市円山動物園にヒグマが侵入、シマフクロウのいるバックヤードにあったホッケなどの餌が食い荒らされる事態となった。
- 釧路湿原国立公園周辺におけるメガソーラー建設問題の発生。鳥を始め多くの野生動物の生態に影響が懸念され、当会として今後も注視していく。

#### 一方で明るい話題も多くあった

- 環境省実施のヒナの標識調査で、前年比17羽多い61羽を確認。これは保護活動に携わられている皆様の努力の賜物。
- 環境省がシマフクロウとの共存ルールを公表、今後の接し方に対する議論の叩き台となるものと期待。
- 山本純郎さんの半世紀近くに亘る保護活動の集大成「シマフクロウのすべて」が発刊。
- 北海学園大早矢仕有子教授による講演など地道な情報発信も続けられている。

#### 北海道シマフクロウの会の活動

- 機関誌「北海道シマフクロウ通信」を年間3部発行。
- クラウドファンディングを実施し、目標70万円を上回る82万6千円を寄付いただく。
- コンサドーレの試合会場で2回啓発活動を行い、約20万円の募金をいただく。
- 保護活動に携わる方々への支援金を前年は8先90万円、今年は11先130万円贈呈。

#### 北海道のネイチャーポジティブ実現に向けた北洋銀行の取組みについて

北洋銀行経営企画部サステナビリティ推進室 対馬統括主任調査役

#### 「ほっくー基金」から「ほっくーネイチャーポジティブ基金」へ

- これまでの生物多様性保全への取組みに対する「ほっくー基金」による助成を、生物多様性を回復させる活動への支援を強化するため「ほっくーネイチャーポジティブ基金」に名称変更、新たな助成コースも追加。

#### 「SDGs(生物多様性)私募債」の取扱い

- 発行金額の一部を「北海道環境未来基金」に寄付、生物多様性カードの配布や環境の日セミナーの開催等を行う。

#### 環境省認定「自然共生サイト」への登録検討

- 銀行所有の山林を環境省認定のウェブサイトへ登録することで、健全な生態系の効率的な保全に資するもの。

#### 環境省北海道地方環境事務所と連携協定締結

- 北海道におけるネイチャーポジティブ(自然再興)、ネット・ゼロ(炭素中立)、サーキュラーエコノミー(循環経済)の同時達成に寄与する取組みを進める。

#### シマフクロウ保護の最新事情

絶滅危惧や好きだから守る、から大切な存在としてのシマフクロウへ  
シマフクロウ環境研究会代表、環境省シマフクロウ保護増殖検討委員 竹中 健氏

#### 最新の状況と基礎調査の重要性

- 標識調査(環境省事業)~巣立ち時期に幼鳥を捕獲し標識をつける。2025年は過去最高の61羽の雛を確認、繁殖状況は良好→標識雛数の増加は生息数の拡大と一体。
- 生き残った幼鳥は数年後に分散し、無事生き延び縄張りを作ることができれば新たな親になる~シマフクロウは定住性で生息地の保護が重要→調査は新たな生息地を探す地道な努力(繁殖の前から行われる鳴き交わしの声の録音調査・解析)を継続。

- 生息調査の結果を保護に活かす~シマフクロウの困りごと 巣の状態・魚(餌)の状態・事故の危険・人間の接近・開発事業などへの対策を各生息地で半永久的に実施。

- 今年度は調査の中で新巣(天然木)9本を発見~樹洞のある大木は、過去の森林伐採で不要木としてたまたま伐り残されたものがわずかに残存。一方倒壊する天然巣もあり、アライグマによる侵略の増加も踏まえ巣箱拡充の必要性がさらに高まる。

- カメラトラップ法(赤外線センサーによる自動撮影機能で記録)~繁殖状況確認や繁殖失敗の原因把握、標識個体の確認(分散個体→繁殖親の流れによる誕生・分散・再生産サイクルの確認)。

- 分散個体のGPS追跡~若鳥にGPSを装着し移動を追跡  
具体例:日高山系で放鳥し追跡実施。個体は西進し石狩低地帯に達するが、森林帯が開発等により分断されており西側の支笏札幌方面には移動困難な状況、馬追丘陵付近の林縁部を北進、岩見沢付近で住みかを探す行動が見られたが、その後山奥に戻り追跡不能に。

#### シマフクロウを守るため:調査研究で留意してきた点

- 科学的な結果を追求~数値、再現性、普遍性。
- シマフクロウの行動に影響を与えない~観察者の影響を除去、自然状態のものを知る。
- 多数の野生シマフクロウを調べる~特殊性ではなく一般性、本来の姿。
- 環境に着目する~絶滅寸前に至ったのは環境の悪化→研究結果を保護に役立てる。

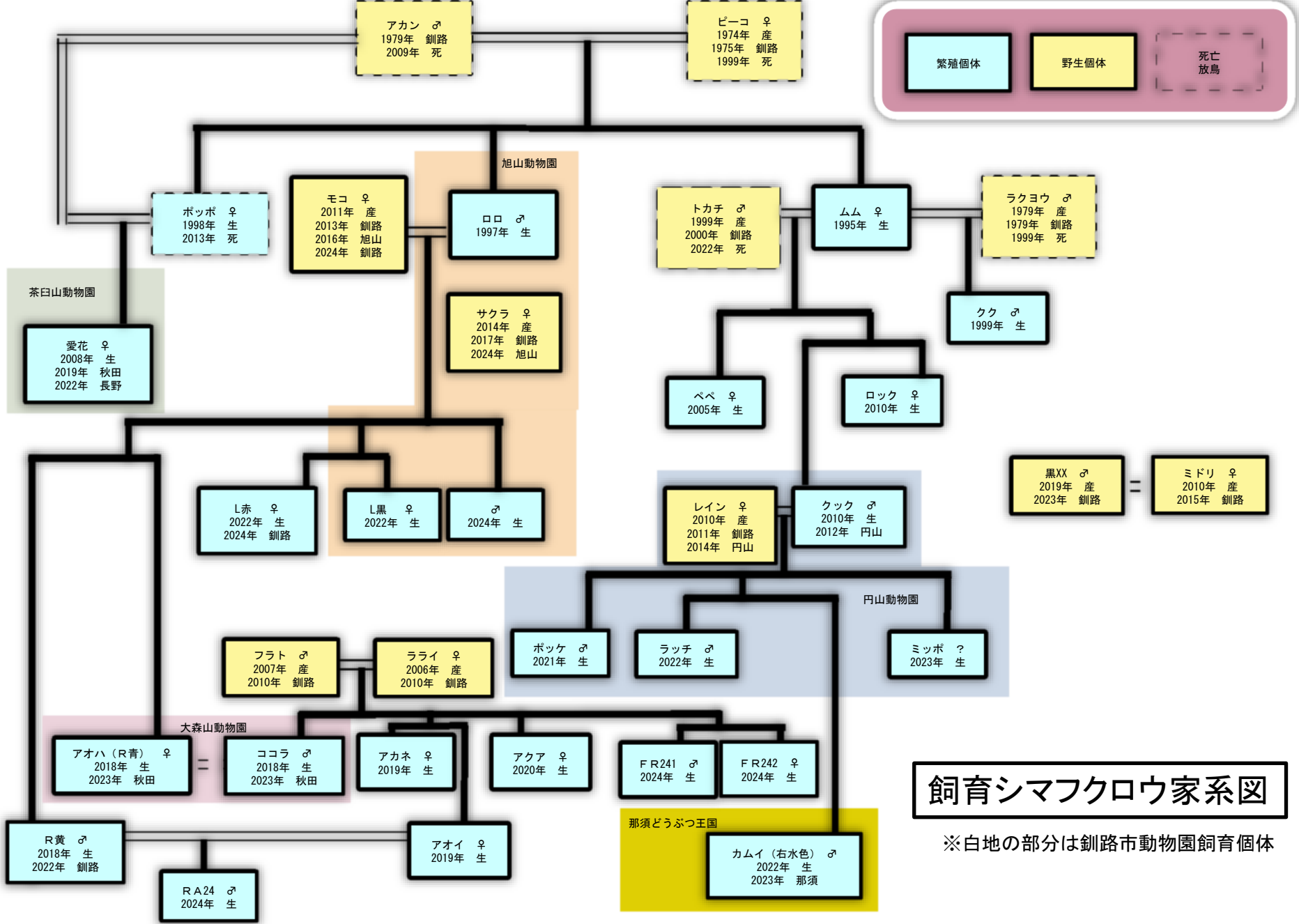
#### 保護の成果・100つがいまでの回復・これからの保護を考える

- 感情への訴えは保護の大きな原動力であった~珍しいという状況(夜行性・生態・地域限定・絶滅・稀)。→一方でデメリット:ファンが追っかきに、情報発信が自慢に、保護に害あるガイド商売の出現→生息状況が好転:数が増えたら熱意が下がる?政府は予算を減らし卒業?

- 感情を入口にしつつ、状況の理解への誘導~どう生き物か、なぜ減ってしまったか、どのように保護し・どうして回復してきたか、シマフクロウに何が必要か・何をしないといけないか、住みかとして何が必要か・何をしないといけないか→シマフクロウは大切な存在であり豊かな自然と一体であることの認識。
- シマフクロウが住むには豊かな川と森が大切~ダムなどの人工物による魚類遡上の阻害→人間による改良にて魚の遡上が回復。

- 特殊な人達ではなく、シマフクロウは皆が関わり守っているという意識が重要→特にシマフクロウに興味がなくとも、シマフクロウの住む環境を守る人達・仕事として従事する人々の存在。

- 自然と環境、そして人間社会との調和を大切に。調べる。知恵を絞る。行動する。



# 飼育シマフクロウ家系図

※白地の部分は釧路市動物園飼育個体